

いとしま学

～糸島の魅力を知り、糸島に誇りと愛情をもち、
これからの糸島の未来について考える学習～

糸 島の魅力を学ぶ

糸島に残る歴史的遺産や文化遺産、糸島の自然を生かした産業、未来のエネルギーを生み出す新たな取組など、糸島の魅力を学ぶため、テキスト「いとしま」を小学校5年生、中学校1年生に配付します。総合的な学習を中心に学習を位置づけ、糸島に誇りと愛情をもつ子どもを育てます。そして、胸を張って自分の言葉で語る事ができる子どもを育てます。



共 に学ぶ

歴史や文化・産業などを支え、守り、伝え、創造してきた多くの糸島の人々との交流や、先人の知恵や工夫、糸島の魅力を生み出した人々の生き方に触れさせる機会を大切にします。また、子ども相互の交流も教室、校内にとどまらず、学校間で積極的に推進し、多くの人から学んだことを友達と共有します。



未 来を創造する

自分の生活やこれから生きていく未来について、夢や希望を抱き、興味・関心・意欲をもつ子どもを育てます。そのために、自分で課題を設定し、内容や方法を選び調べる活動や情報を交換・共有し、分担・協力しながら課題を解決する活動、課題に対する自分なりの考えや実践を創り出す活動を大切にします。



「いとしま学」を推進するための

ポイント①>「選択」「協働」「創出」をキーワードとした『学びのデザイン』

ポイント②>テキスト「いとしま学」・DVD「いとしま学」を活用した学習

学びのデザイン

何を「選択」するのか？

①課題や調査内容
・共通課題を解決するための課題を選択

②調査方法
・テキストの活用
・インタビューや実地体験



③目的や相手に応じた発表方法

・説明形式やクイズ形式で
・広用紙やプレゼンテーションで



どのように「協働」するのか？

①収集した情報や考えの交換・共有
・同じ課題のグループ、違う課題のグループで



②多様な他者と共に働く
・地域の人と一緒に
・小学生と中学生と一緒に



何を「創出」するのか？

①未来の糸島、自分自身の生き方への考えをつくる

②児童生徒がプランをつくる
・つくったプランを提案



小学校版

昔のくらしの足跡や、今ものこる古い街並みなどから、ふるさと糸島で生きてきた人のすばらしさを学びます。

イラストを使って昔の糸島人がどのようなくらしを営んでいたか説明しています。当時の人々がどのような場所で、何を使って、どのような毎日を過ごしていたかをイラストから楽しく想像することができます。また、同じページ内にイラストの元となった遺跡や遺物の写真を掲載することで、くらしの様子をより具体的に想像できるようにしています。



中学校版

過去から現在までの変遷から糸島で生きてきた人の姿を調べることで、郷土糸島に対する誇りと愛情を育てます。

「歴史・文化編」と「産業・自然編」の2つから構成されています。「歴史・文化編」では、歴史的、文化的価値が高い遺跡や遺物、行事などについて詳しく紹介し、糸島の文化について深く考えてもらえるようにしています。「産業・自然編」では、糸島で働く人、糸島の自然を守る人、糸島を楽しむ人に焦点を当て、それぞれの人々が糸島に対してどのような思いをもっているかに迫ります。



特徴1 「歴史・文化編」「自然編」「産業編」の3部構成
 テキスト「いとしま学」小学校版、中学校版からピックアップした事例を「歴史・文化編」「自然編」「産業編」の3部から紹介

特徴2 ドローンによる空撮映像
 地上からは確認が難しい古墳の全体像や地上とは違った視点から見る海岸線や芥屋の大門の洞窟などを掲載

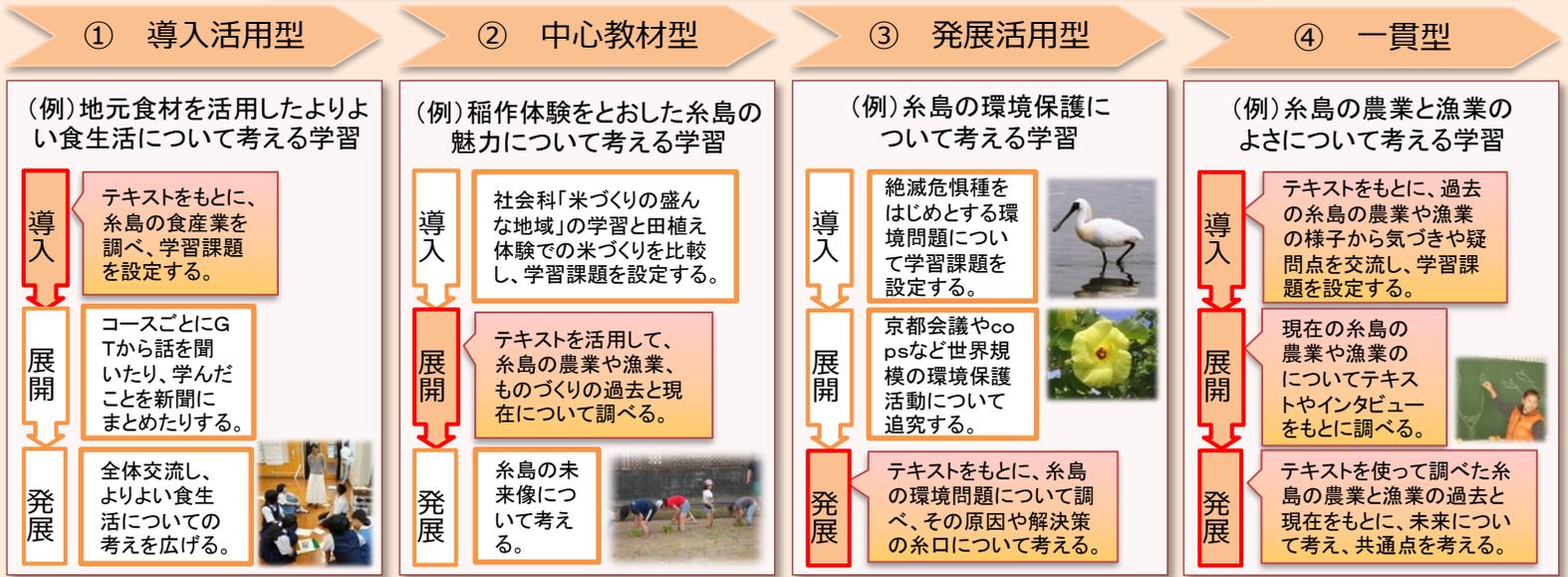
特徴3 実際に見ることが難しい事例も紹介
 限られた時期にしか咲かないハマボウやオオキツネノカミソリ、実際には見学することが難しい糸島半島沖合にある烏帽子島、タイの五智網漁などを掲載

活用法

- 導入段階で、児童生徒の興味関心を喚起させる教材として
- 展開段階で、情報収集のツールとして
- 終末段階で、学習のまとめのアイデアとして



テキスト「いとしま学」を活用した学習



これからの「いとしま学」
 ➢ 全学年通じて 地域を知り、愛着と誇りをもつ 児童生徒を育てる学習を

★前原小学校の例★
 コミュニティ・スクールの取組として、地域住民・保護者・教員で、「生活科・総合的な学習の時間」の実践に関する熟議において「地域を愛する子どもを育てる学習」の提案・協議

- 1年「たのしもう秋」
- 2年「レッツゴー町たんけん」
- 3年「調べよう 前原商店街のお店のひみつ」
- 4年「守ろう 糸島の自然を」
- 5年「働くってどんなこと？」
- 6年「知った？ 『ぶらり まえばる散歩』」